

Association between the electroconductive value at 24 acupoints and blood pressure in community-dwelling Japanese: The Toon Health Study

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード: 作成者: 大沼, 美智子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002735

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2448 号

Association between the electroconductive value at 24 acupoints of Ryodoraku theory and blood pressure in community-dwelling Japanese : The Toon Health Study

地域住民における良導絡理論による 24 か所の経穴の皮膚伝導値と血圧の関連：東温スタディ

大沼 美智子 (おおぬま みちこ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

良導絡は東洋医学の経絡・経穴理論に基づき、経穴（ツボ）において皮膚に流れる電流量を皮膚伝導値として測定する。皮膚伝導値は交感神経活動の指標と考えられていることから、様々な疾病に対する鍼灸治療で良導絡が用いられている。これまでに、高血圧患者を対象に良導絡に基づく鍼灸治療により血圧を低下させた症例集積が報告されているが、良導絡と血圧の関連を示した疫学研究はない。そこで本研究では、地域住民を対象に良導絡で用いられる経穴の皮膚伝導値と血圧の関連を明らかにすることを目的とした。2011年から2015年に東温スタディに参加した30歳から79歳までの降圧剤を服用していない男性451人、女性950人を対象とした。鍼灸師が良導絡で用いる両手足24か所（手：H1-6、足：F1-6）の経穴の皮膚伝導値をニューロメーターで測定した。24経穴の皮膚伝導値から左右の平均値を求め、さらに手全体（H1-6）、足全体（F1-6）ならびに手足全体（H1-6ならびにF1-6）の平均値を算出した。血圧は5分間安静後、血圧計で2回測定し、その平均値を用いた。皮膚伝導値と収縮期血圧ならびに拡張期血圧の関連を男女別に重回帰分析により検討した。調整変数は年齢、Body mass index、飲酒の有無、喫煙の有無、身体活動量、測定月、閉経の有無とした。分析の結果、男性では、手足全体（H1-6ならびにF1-6の平均値）の皮膚伝導値が高いほど、拡張期血圧の上昇と有意に関連した（ p for trend = 0.02）。女性では、手足全体（H1-6ならびにF1-6の平均値）の皮膚伝導値が高いほど、収縮期血圧（ p for trend = 0.02）、ならびに拡張期血圧（ p for trend < 0.01）の上昇と有意に関連した。本研究により地域住民において、良導絡による経穴の皮膚伝導値の増加は、収縮期血圧ならびに拡張期血圧の上昇と有意に関連することが示された。高血圧に対する良導絡理論の因果関係や治療効果を解明するためには、今後更なる縦断研究や介入研究が必要である。